

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2024No.358】（HP 収載）

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

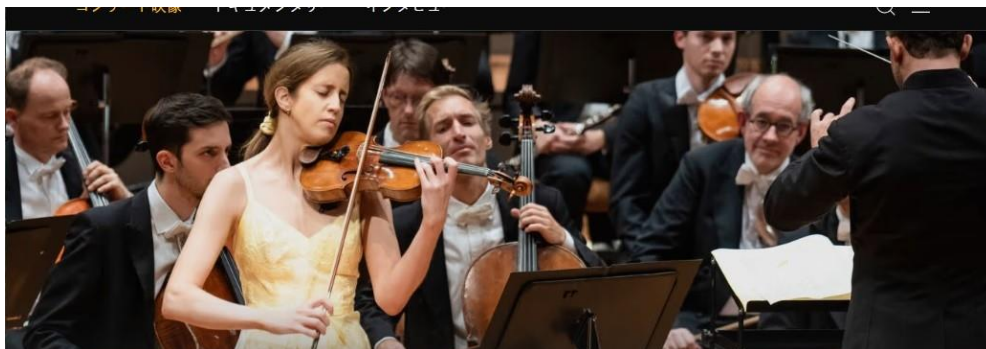
作曲家：エーリヒ・ヴォルフガング・コルンゴルト

曲名：ヴァイオリン協奏曲ニ長調 op. 35

演奏：ヴィルデ・フラング(ヴァイオリン)/キリル・ペトレンコ指揮季ベルリン・フィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/55634>

2024年11月8日大ホールでの演奏です。



ペトレンコとフラングがコルンゴルトのヴァイオリン協奏曲で共演
アメリカ・ツアーを直前に控えたベルリン・フィルと首席指揮者キリル・ペトレンコが、大西洋を越える橋を架けるプログラムを披露しました。ラフマニノフ、コルンゴルト、ドヴォルザークは、いずれもアメリカで多くの時間を過ごした作曲家です。不気味な揺りかごのような音調のラフマニノフの《死の島》で始まり、続いて演奏されたのは、映画音楽のようなコルンゴルトのヴァイオリン協奏曲。独奏を務めたヴィルデ・フラングの演奏は「繊細な表現」だったと評されました（「ターゲスシュピーゲル」紙）。コンサートの最後には、暗い音色を特徴とするドヴォルザークの交響曲第7番が奏でられました。

その他、下記が演奏されました。

セルゲイ・ラフマニノフ 交響詩《死の島》 op. 29

アントニオ・マリア・モンタナーリ ジーガ・センツァ・バッソ

ヴィルデ・フラング(ヴァイオリン)

アントニン・ドヴォルザーク 交響曲第7番ニ短調

コルンゴルトのヴァイオリン協奏曲ニ長調は、メランコリックな1楽章、ついで抒情的な2楽章、さらに躍動的な3楽章と、フラングのヴァイオリンがヴィブラートの効いた透明度の高い音色を聴かせてくれます。

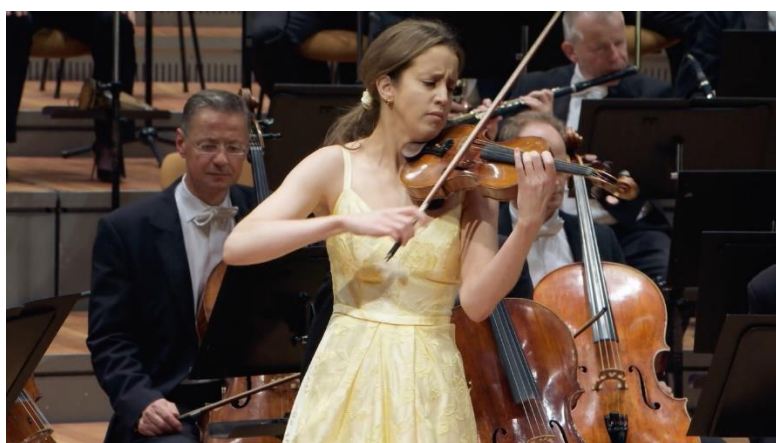
ラフマニノフの交響詩《死の島》は、題名通り重苦しい表情が続き、挽歌のように木管が歌って終わります。

モンタナーリのジーガ・センツァ・バッソはアンコール曲で、イタリアバロックの舞曲のような小品です。

ドヴォルザークの交響曲第7番は、第9番や第8番ほど聴く機会がありませんが、躍動的な1楽章、牧歌的な抒情性の2楽章、舞曲風の軽快な3楽章、そして壮大な締めくくりの4楽章と、第9番や第8番に通ずるものがあります。

聴衆の声援に応え、終演の後、団員が退席した後も珍しくペトレンコがステージに呼び出されていました。

最近の音質対策は、スピーカーアキュライザーのマイナス端子に **Crystal Ep-Y** を接続したのですが、上記のような多彩な表情の音楽に対応できるようになっています。



以上